

日本のアスパラガス癸祥の地

北海道の冷害対策作物として生れたアスパラガス産業の今日の隆盛は、大正十一年、岩内町出身の農学博士故下田喜久三が心血を注いだ研究により寒冷な風土に耐えしかも罐詰原料としての特性をそなえた新品種瑞洋種の育成にしたことに因る

氏は、翌十二年現在の共和町に四十ヘクタールの直営農場を設けアスパラガスの栽培に着手し時に一般農家にその栽培を

た　　ついで大正十三年　岩内町日本アスパラガス株式会社を設立し　大正十四年　会社はアスパラガス罐詰の企業化生産に成功しこれが東洋におけるアスパラガス産業の始めである。

右の事蹟を継承し　この地においてアスパラガスの栽培につとめる耕作者と罐詰の生産流通にあたる地元企業が相はかり　関係者の協力を得て此の地が　我が国に於けるアスパラガス産業癸祥の地であることを明記し併せて先人の功績を讃え　ここに記念碑を建立するものである

題字　北海道知事　堂垣内尚弘